

第6回（2022年1月開講）新・里山講座アルバム

2022年6月30日

第6回新・里山講座は受講生14名の皆さんと2022年1月9日から6月12日まで全16回連続で実施予定でした。ところが、2月20日「竹炭焼き体験」、3月12日「植樹」は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、秋に延期することになりました。実施済の講座アルバムと受講生の皆さんの感想を取りまとめました。

第1回1月9日（日） 大阪市立総合生涯学習センター第3研修室にて開講しました。13時より開講式と座学「保全協会の目指す里山とは」を行いました。

1. 開講式、受講ガイダンス

写真左は、主催者を代表しご挨拶された金谷薫氏、
（（公社）大阪自然環境保全協会 副会長）。

写真中は、受講ガイダンスを説明の講座運営の責任者、大塚陽一氏。

写真右は、司会のスタッフ大越悦子さん。



3. 自己紹介

写真は、自己紹介風景。

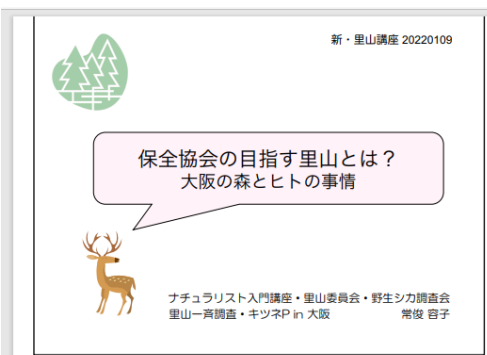


<受講生の皆さんのふりかえり>

- 講座修了後スタッフとして活動している方がたくさんいました。そうなれたらいいな。
- 十分に時間をとって頂き自己紹介のみならず、大阪各地の様子が分かり良かったです。
- 参加したきっかけはそれぞれバラバラでも、自然や里山を大切にしたい想いや自然に親しみたいという想いは同じなのだと感じました。

4. 講義 保全協会の目指す里山とは（講師：常俊容子氏 ナチュラリスト講座企画運営）

写真下、左より講義タイトル、講師の常俊容子氏、受講風景。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 里山維持に継続して参加出来れば良いと思った。
- 里山の歴史が良く理解出来ました。里山の管理が重要だと思いました。
- 環境と人との関り、植物や動物がどのように変わって来ているか、事例と検証を使って多くを学びました。
- 我々の身近にも沢山の里山があることに驚きました。里山の歴史もとても面白かったです。

第2回1月18日（火） 第6回新・里山講座第2回目は2022年1月18日（火）19時より受講生の皆さん11名、スタッフ6名出席のもとオンライン講義「森林のしくみ」を行いました。

1. 講義「森林のしくみ」（講師：藤原宜夫教授 大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻）

写真下、左より講義タイトル、講師の藤原宜夫氏、スライドの一例。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 先ず、藤原先生の講義は大変分かり易くありがとうございました。
この講義を聴講できる大阪府立大学生は幸せだと思います。
- ありのままの自然が良く、人の影響で自然が壊されるのは悪いことなのだと考えておりました。
ですが実は、人為的攪乱が行われることで、2次的な自然が作られ、そこには様々な環境が生まれ、それに伴い、生物多様性の高い環境が育まれるという、プラスの効果があることも理解でき大変勉強になりました。
- 人が関わることで、人とともに生き続ける里山が生き続けるのだと深く心にはいってきました。
自然の多様性を保つには、より広い視点で自然と関わることの必要を感じました。

第3回2月1日（火） 第6回新・里山講座第3回目は2022年2月1日（火）19時より受講生の皆さん10名、スタッフ4名出席のもとオンライン講義「里山保全事故事例・KYK」を行いました。

1. 講義「里山保全事故事例と安全対策」（講師：大塚陽一氏 事務局）



講師：大塚陽一氏

司会：スタッフ菅原あつ子さん



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 子供の時、国鉄と呼ばれていた頃、職員さんが指差しで点検していました。本日の講座で危険が想定出来る中で「言わなくても分かっている」ことでも尚更言葉で確認しKYKなど書かれたものを見て、皆で共有することが大切だと痛感しました。これから実践していこうと思っています。
- 事故の事例をたくさん見て誰にでも起こりうるのだと思うし、事前に対策をたて「ご安全に」にするための努力と意識づけは大切だと思いました。
- 現場で作業するに際し、どのような危険があるのかよく理解できました。本日学んだことを基本にまた、当然ながら当日の作業前に受ける注意事項にも十分留意するようにしたいです。

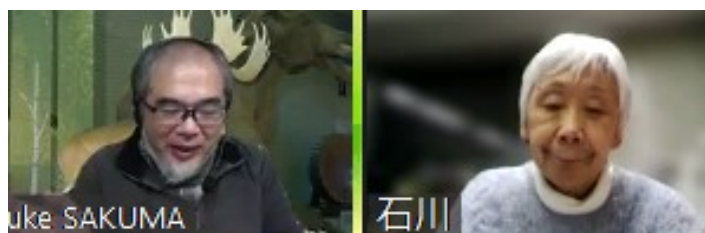
第4回2月15日（火） 第6回新・里山講座第4回目は2022年2月15日（火）19時より受講生の皆さん11名、スタッフ8名出席のもとオンライン講義「人の暮らしと里山」を行いました。

1. 講義「人の暮らしと里山」（講師：佐久間大輔氏 大阪市立自然史博物館 学芸課長）



講師：佐久間大輔氏

司会：スタッフ石川由紀子さん



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 里山は自給自足だけではなく、都市への供給源として経済的なつながりをもって存続していたということが新鮮な学びでした。
- 経済活動 都市と里山という視点で、それぞれの里山の特色が生まれていること、里山のあるべき姿はそれぞれの場所によって違うものであることを学んだ。
- ボランティア活動で竹林伐採や草刈り等を実施している現状では荒廃に対してごく僅かな抵抗活動でしかなく、里山利用へ新規就労者の定着は重要です。日本古来の文化が失われてしまうとの危機感を国が直視して環境保全教育に注力し未来に豊かな自然を残せるよう将来ビジョンを明確にして、里山活性化を図る必要があると考えます。

第5回3月20日（日） 第6回新・里山講座5回目は2022年3月20日（日）受講生の皆さん10名、スタッフ5名出席のもと妙見里山倶楽部さまの受け入れて高代寺山にて「竹間伐実習」を行いました。晴れたり曇ったり時には雨がぱらつき気温も10℃にもならない寒い日でしたが、受講生の皆さんしっかりと実習されました。

1. 妙見里山倶楽部紹介、フィールド見学

左：伊藤温夫会長

中：高代寺山活動地

右：高代寺に登り切った場所から妙見山をのぞむ

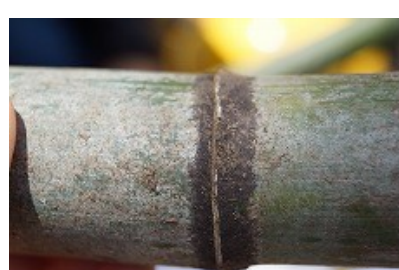


2. 座学「竹の話」伊藤温夫会長、「竹の伐採処置作業」井上登紀夫氏

左：受講風景

中：進行役のスタッフ大越悦子さん

右：節が一輪のモウソウチク



左：節が二輪はハチク、マダケ 中：二輪で枝に空洞があるのがマダケ

右：井上登紀夫氏



3. 実習「竹間伐」

4班に分かれて行く、講師：各班とも妙見里山倶楽部スタッフ、補助：講座スタッフ

＜実習風景、まずはKYK、危険予知と安全対策＞



＜実習風景＞



＜受講生の皆さんのふりかえり＞

- 講義を聴いてからの実習は安全点検、作業工程、実習体験を通しての楽しさ、地域の方の親切にあつという間に時間が過ぎました。
- 太い竹がそれほど苦勞なく切れてスカッとした。1本最後に「跳ねて」ヘルメットの有難さがよく分かった。
- 最初はぎこちなかったですが、4～5本と切るとノコギリの使い方など慣れてきました。
下まで搬送しましたが、一連の作業工程がよく分かりました。

第6回3月29日（火） 第6回新・里山講座6回目は2022年3月29日（火）19時より受講生の皆さん11名、スタッフ9名出席のもと4月3日（日）紫金山公園で行う「下草刈り・ロープワーク実習」時の予備知識としての「紫金山公園の植生」と「市民運動が公園計画を作った」についてオンライン講義を行いました。

1. 講義「紫金山公園の植生」(講師：武田義明氏 紫金山みどりの会会長・神戸大学名誉教授)

講師：武田義明氏

司会：スタッフ草竹佐知さん



<受講生の皆さんのふりかえり>

- よく似た植物の見分け方は図鑑をただただ見ただけではよく分からなかったですが、適切なお話で楽しく理解出来ました。
- 住む人がその場所の植生を作り育んでいることを実感しました。常緑樹を切るという視点が、初めて知ることによって残りました。
- 色々な植物が生えていることがわかり、よく調査されていることがわかりました。
また植生の変遷や、マツ枯れの問題、ナラ枯れなどいろいろな課題もあることがわかりました。

2. 講義「市民運動が公園計画を作った！」(講師：金谷薫氏 紫金山みどりの会事務局長・大阪自然環境保全協会副会長)

新・里山講座・本日のテーマ
「市民運動が『公園計画』を作った！」
～紫金山公園ができるまで～



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 官民協働の形がうまく機能しているということで、羨ましく感じました。専門知識を持ったメンバーがいらっしゃるということがとても心強く、結びつきも強固な会なのだなと感じました。
- 公園は公共が計画するものだと思っていたが、市民でも活動することで意見を反映させることが出来るんですね。
- 吹田市の市役所との関係性がイメージと違ったもので大変良い関係性だと感じました。

第7回4月3日(日) 第6回新・里山講座7回目は2022年4月3日(日) 受講生の皆さん11名、スタッフ7名出席のもと紫金山みどりの会さまの受け入れで紫金山公園にて「下草刈り・ロープワーク実習」を行いました。午後より雨が降り出し気温も上がらない中ではありましたが、受講生の皆さんしっかりと実習されました

1. オリエンテーション

左：会場の紫金山公園の広場 中：中央が挨拶される金谷薫事務局長、右が岡本利典氏、左が進行担当の草竹佐知さん、右：準備運動



2. 実習「下草刈り」 講師:岡本利典氏 受講生の皆さんは3班に分かれて行く。

＜最初に下草刈りデモ＞鎌の使い方、刈り方、種類、収納要領など



＜作業前には班ごとにKYKボードを使って危険予知と安全対策＞



その後に下草刈り実習＞



＜綺麗に刈り取り出来ました、上段が刈り取り前、下段が刈り取り後＞



<受講生の皆さんのふりかえり>

○鎌を使ったのは初めてだった、案外使えたと思う。ササの生育の速さに驚いた。

○ササを鎌で刈りましたが、左手で竹をしっかりと引っ張って作業をしないと刈り取ることが出来ませんでした。

○誰にでも出来る作業ですが、安全で効率良い作業方法を学びました。

<鎌の清掃・研ぎ>下草刈りを終え基地で鎌の清掃・研ぎを行う

左：要領説明

中：研ぎ方デモ

右：受講生の皆さんで実習



<紫金山公園はコバノミツバツツジが満開！>

左：コバノミツバツツジ

中：ソメイヨシノ満開

右：ソウシチョウもやって来た



左：ムクロジ実と中のタネ、タネは羽根つきの玉、数珠の玉などに使われる。

中：実を水に浸すと果皮にサポニンを含むため泡立ち石鹸に使える、岡本氏試作の石鹸水

右：紫金山公園で見つかったキイロスズメバチの巣



3. 実習「ロープワーク」講師：岡本利典氏、補助：清水由夫氏、講座スタッフ。

<下草刈りと同様に3班に分かれ、雨が降って来たので博物館軒下で行う





<受講生の皆さんのふりかえり>

- 結び方を教わりましたが、家に帰って練習しないと忘れてしまいそうな不思議な世界ですね。
- ひととおり知ってましたが復習、新しい結び方を教わって興味深かった。特にもやい結びの人命救助のための結び方は勉強になった。
- 今夜はTVを見ずに練習するぞ！

<ロープワークを終え、博物館前にあるピンク火山灰の見学を行った>
100 万年前に九州から飛んできて積み地層となった



<その後、紫金山公園で見られるドングリとツツジの樹をテキスト参照し見学した>
左：クヌギ・アベマキの林 中：モチツツジ 右：アラカシ



4. 紫金山公園フィールド見学・活動について

3 班に分かれて行う、講師：1 班岡本利典氏、2 班清水由夫氏、3 班金谷薫氏、補助：講座スタッフ

<受講生の皆さんのふりかえり>

- このような活動を通して市民が自然や知識を実践し共有していけば、共存共栄出来ると思います。サクラとコバノミツバツツジの満開時に参加させて頂き感謝します。
- 池が思っていたより大きく、また、常緑樹も多かったです。よく分かりました。
- 想像以上に樹木の量、種類が多く魅力的な公園だなと思いました。

第8回4月17日(日) 第6回新・里山講座8回目は2022年4月17日(日) 受講生の皆さん11名、スタッフ7名出席のもと「富田林の自然を守る会」さまの受け入れで奥の谷にて「人工林間伐実習」を行いました。お天気も良く気持ちの良い中で受講生の皆さんはしっかりと楽しく実習されました。

1. オリエンテーション

左：進行担当の野月善一さん 中：中央が挨拶される田淵武夫会長 右：準備運動



2. フィールド見学（引率&講師：田淵武夫会長）

田淵武夫会長の引率説明により行う。

左：基地のバイオトイレ説明

中：竹林エリア

右：見晴台到着・富田林市街地一望PLタワーも



左：尾根を行く

中：モチツツヂ満開

右：人工林マエエリア



<受講生の皆さんのふりかえり>

○実習初の晴れで気分は最高、竹や人工林や三層構造、花の名前、タケノコ、学生ボランティア活動による間伐等など、いろんな説明が聞けて大きな学びとなりました。

○竹林、雑木林、人工林でも手を入れたところは明るい心地良い森になっており、その違いがよく分かりました。

○フィールド見学について、森林の遷移を生で見ることが出来、大変勉強になった。

4. 人工林間伐実習（講師：田淵武夫会長）

<富田林の自然を守る会のスタッフによる間伐デモ>

左：残すもの間伐する材の決定 中・右：かかり木にならないように倒す方向の決定



左：受け口を切り出す 中：切り取った受け口 右：倒す方向に狂いがいいか定規にてチェック



左：ナタで受け口修正 中：ロープにて倒す方向に引っ張る 右：かかり木にならず倒れる



<受講生の皆さんによる間伐>

左・中：まずはKYKにより安全確認 右：倒す方向を確認



左：切る面をチョークで記入する 中：受け口を切りだす 右：ロープ設置



受け口は斜め下に切り出すため、難しいが受講生の皆さん交代して切り出す



間伐までの作業の流れ



倒した2本の樹の玉切り、枝打ちを群がらずに2班に分かれて間隔を取って行う。



ヒノキの皮剥ぎも体験する



開始時に予知した危険以外に作業をして危険を感じたこと、ヒヤリハットしたことを出し合い安全に対する感性を高める。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 生えている樹を実際に伐採する、なかなか出来ない体験が出来て楽しかった。 樹の重さを実感した。
- 1本の樹を切る大変さと、その大きなやりがいを知ることが出来た。
- 切った樹の処理にいても学ぶことが出来た。 樹を切るという作業の中にたくさんの危険があることを実感した。
- 樹が倒れるときのメキメキという音にとっても興奮しました。 ノコギリの使い方、もっと上手になりたいです。

第9回5月3日(祝火) 第6回新・里山講座9回目は2022年5月3日(祝火) 受講生の皆さん9名、スタッフ7名出席のもと「太子町葉室里山クラブ」さまの行事「お茶摘み体験」に参加しました。
お天気も良くご家族連れも参加されている中、受講生の皆さんも楽しくお茶摘みされました。

1. オリエンテーション

左：中央の方がクラブ代表の小路公之さん 中：お茶摘みの説明をされるクラブの中條月代さん 右：お茶の葉の摘み方、枝先の2～3葉を摘み取る



チャノキとは、「葉で見わかる樹木 林将之著 小学館より



チャノキ [茶木] 別名チャ[茶]
Camellia sinensis 同科ツバキ属の低木。中国周辺原産。畑や庭に植えられ、しばしば野生化。若葉は緑茶に利用される。秋にツバキに似た白花をつけ、径約2cmの果実がなる。



3. お茶摘み体験

チャノキは里山ゾーンに入り基地に行くまでの林道沿いに植えておられる、講座メンバーは里山入り口側ゾーンを担当。以下、お茶摘みのスナップ



3. お茶づくりデモ見学

<太子町葉室里山クラブスタッフによるお茶づくりデモ>

昼食後、午後の開始は摘み取った葉のお茶づくりのデモ、葉の掃除、不要なものの除去を最初に行い、次に小路さんが中華鍋で葉を蒸す担当、中條さんともう一人の方が蒸した葉をこねくりまわす担当で、これを 10 数回繰り返し行ってくると序にお茶の香りがしてきます、完成です。小1時間ほどですが、暑くて根気のいる作業です。



参加者の皆さんにはコロナ対策で見学の

み、レシピが渡され、自宅でトライされる旨の説明がありました。その後、お団子を頂きながら、デモで作ったお茶を一服、色は麦茶のようで、なんとも言い難い味でした。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- お茶の作り方初めて見ました。段々と香りが立ってきて食べてみると苦み⇒柔らかい味へと変化があり、頂いたお茶はまろやかな味でとても美味しかったです。有難うございます。
- 山の側道にあるお茶を摘みました。無農薬で2葉か3葉を摘み採る。実演もあり分かり易かった。
- 枝先から2〜3枚の柔らかい新芽を摘み採りました。1時間足らずでは配ってもらったポリ袋（大サイズ）の底の方に二つかみ程度だけでしたので、お茶に加工するとごくわずかになりそうです。

4. フィールド見学クラブの植田さんに受講生の皆さんを引率説明頂きました。

左：観察小屋内（クラブのメンバーで建設された） 中：隣接する池に浮かぶドラム缶イカダ 右：基地に咲くシライトソウ



左：ツリーハウス



中：フィールド内にある古墳



右：基地内のトイレ



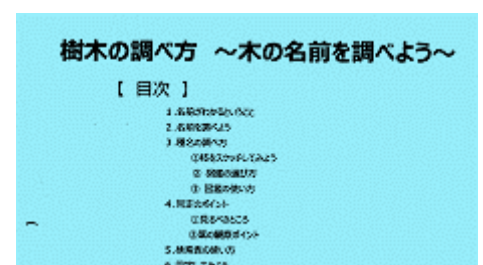
<受講生の皆さんのふりかえり>

- ツリーハウスも含めて素敵なフィールドを整備しておられることに、これからの可能性を感じました。子供も沢山参加されていることが素晴らしいと感じた。
- 太子町の森をゴルフ場からよく守ってくださったと感激です。もともと段々畑だったところが放置され、今の森になったと伺い自然の生きる力をすごく感じました。
- 「次世代を担う子供たちのために」という活動ポリシーが素晴らしいと思いました。「ドラム缶イカダ」や「ツリーハウス」など発想が素晴らしいです。

第10回5月8日（日） 第6回新・里山講座10回目は2022年5月8日（日）受講生の皆さん11名、スタッフ7名出席のもと「樹木の調べ方」について万博記念公園にて実施しました。里山管理に樹木の種名を知ることは必要なことになります。その樹木の種名をどうの手順で調べていくのかを学ぶ内容です。

1. オリエンテーション

左：会場の実習室 中：オリエンテーション風景 右：テキストなど配布。



2. 講義：樹木の調べ方 土生陽子氏（木象簞 こぼみつ亭代表）

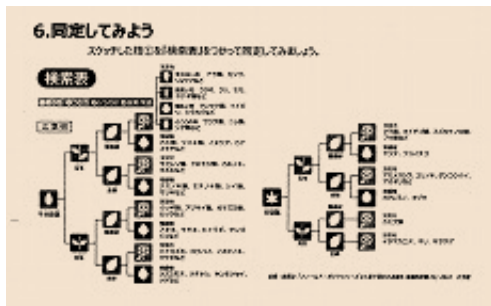
左：講師の土生陽子氏 中・右：枝・葉の特徴を調べるためスケッチ。



左・中・右：スケッチした樹の同定作業。



左：同定手順 中：使用した共通の図鑑、葉で見わかる樹木：林将之著 小学館。
右：葉の特徴を整理して同定結果はコナラとなった。



特徴	樹種	クヌギ	アサギ	カシ	コナラ	ミズナラ	シロナラ	アブハナ
幅が一握 広いところ	風光	葉の裏の 中脈	葉の裏の 中脈	葉の 裏	葉の裏の 中脈	葉の 裏	葉の 裏	葉の 裏
葉の裏	両面緑	緑	両面緑	両面緑	両面緑	両面緑	両面緑	両面緑
葉の裏	1-2cm	1-2cm	1-2-3cm	1cm	0.5-1cm	1cm	1-2cm	1-2cm
葉の裏	細く鋭い	両面	両面	両面	両面	両面	両面	両面
葉の裏	高い	両面	両面	両面	両面	両面	両面	両面

<受講生の皆さんのふりかえり>

- ただ、漠然と見ていた樹、樹を知るにあたっては、まず葉をそして不分裂か分裂かといった検索表にそって調べていくことで樹の名前にたどりついたときは、とても感激でした。
- 最近公園に植えられている樹の種類が気になってきていたので非常に勉強になった。
- 同じ樹の葉でも、よく見ると様々な形があったので興味深かった。
- 専門用語を使わず分かり易い言葉で分かり易かったです。
- 同定の手順も分かり易く教えて頂き、午後からの実習がスムーズでした。

4. 実習：樹木の調べ方 土生陽子氏（木象簞 こぼみつ亭代表）

各グループに同定して頂く樹を指定しその場所に案内、終われば付近の樹を1本選び同定する、時間は30分。



終われば、同定した樹のもとで結果を他のグループに発表、土生先生のコメントを頂く



1 班アオギリ、2 班アキニレ、3 班エノキ、4 班アベマキ、5 班クヌギ、6 班アカメガシワ、を指定しましたが、各グループ正解、お見事です。

<受講生の皆さんのふりかえり>

- 葉のつき方（互生対生）葉の形（分裂羽状他）葉の縁（全縁か鋸歯）、常緑樹・落葉樹で徐々分類し、樹皮の特徴などの説明書きを参照に絞り込むことで同定できることがよく分かりました。
- 午前中に丁寧な講義を受けていたのでフィールドがとても楽しく実のあるものになりました。
講師の先生のさらなる補足説明でより深くそれぞれの樹のことを興味深く知ることが出来ました。
- 皆がいきいきと調べ発表する姿が楽しかったです。

第11回5月17日（火） 第6回新・里山講座11回目は2022年5月17日（火）19時より受講生の皆さん10名、スタッフ5名出席のもと5月22日（日）五月山で行う「毎木調査・図面化」時の予備知識としての「植物調査の必要性と方法」について土生陽子氏（木象簀こばみつ亭代表）の講義をオンラインで行いました。

講義「植物調査の必要性と方法」（講師：土生陽子氏 木象簀こばみつ亭代表）

講師：土生陽子氏



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 保全活動を有意義なものにするためには、現状把握とそれに基づいた計画、およびその結果の評価が重要であることを学びました。どんな分野でも基本は一緒ですね。
- 今回も土生先生によるわかりやすい講義で大変勉強になりました。
管理計画の進め方や、調査方法についても図などを用いたご説明ですごくイメージしやすかったです。
- 事前調査の重要性は理解できましたが、具体的に調査するとなると大変だなと思いました。また、事前調査の結果に基づき理想的な里山を想定して、間伐等実施することが良く理解出来ました。

第12回5月22日（日） 第6回新・里山講座12回目は2022年5月22日（日）受講生の皆さん11名、スタッフ6名出席のもと「五月山グリーンエコ」さまの受け入れで「フィールド見学・毎木調査・図面化」を行いました。初夏の晴天のもと、受講生の皆さんも急登にもめげず奮闘しながら、しっかりと実習されました

1. オリエンテーション

左：緑のセンター正面玄関 中：センター裏の広場でオリエンテーション
 右：五月山グリーンエコー代表の中川勝弘氏より受け入れご挨拶
 準備体操をして体をほぐし、ヘルメット、名札、スパッツ装着しフィールド見学に出発。
 スタッフの半数は調査地の整備のため、調査道具を持ち直接調査地へ向かいました。



3. 五月山フィールド見学（中川勝弘氏引率により炭焼き小屋コースに行く）

左：各ハイキングコース分岐点 中：すがたに広場 右：自作のピザ窯、今日は火が入っている。
 2段目新緑の美しい中、急登なコースに行く、コースの下と上では植生も微妙に変化してます。
 右：五月平高原コースに合流少し登ると「がんがら火祭り」の火床に到着、絶景ポイントで大阪平野が一望出来、辛い急登を登り切ったご褒美です！



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 炭焼き小屋コースをゆっくり見学させて頂き、森林の遷移について理解出来ました。
- 20 数年間でササを伐採し炭焼き小屋コースを整備された会員の方々の努力に感激しました。
 上部まで登って伊丹空港方面の絶景は息をのむほど美しかったです。有難うございました。
- 長年苦勞して管理されて来て、非常に素敵なフィールドになっていることが素晴らしいと思った。

3. 毎木調査（土生陽子氏指導のもと行う）

左：五月平高原コースのすぐ横にある調査地 中：調査用具 右：調査要領の説明



右：調査項目の担当を決めます（座標、樹高、生枝下高、樹冠の広がり、胸高周径、樹種名、記録者など）



中：赤白色20 cm毎の全長2mのバカ棒による測定 右：測定値を記録します



毎木調査状況



【植生調査票】

2022年 5月 22 日

[illegible]

7551 【 毎木調査票② 】

2022 5.22/4

NO.	種 名	樹高	生枝下高	胸高周径	樹冠				展 望		備 考
					X方向		Y方向		X方向	Y方向	
					0度	90度	0度	90度			
1	新3216	62	2.5	19	2.0	0.6	1.2	0.6	0	0	
2	新元々42	16	0.5	0.2	0.6	0.0	0.4	0.6	0	1.0	
3	新7-16	28	0.8	1.	1.2	0.8	0.4	0.6	60	40	
4	"	22	1.2	0.6	1.2	1.0	1.0	0.6	1.0	1.0	
5	新904	8.0	3.4	0.23	0.4	0.6	0.4	0.4	0	2.0	
6	新904	4.0	2.0	0.6	0.4	0.4	0.4	0.4	0.0	2.0	移植予定
7	新904	7.0	5.7	0.2	0.4	0.4	1.2	1.0	0.4	3.0	
8	新41042	22	0.4	0.4	0.4	0.6	1.0	1.0	0.6	4.0	
9	新4104	5.0	3.7	0.12	0.6	0.4	1.8	0.6	0.0	5.0	
10	新4104	16	1.0	0.4	0.6	0.6	0.4	0.4	1.0	4.0	

<受講生の皆さんのふりかえり>

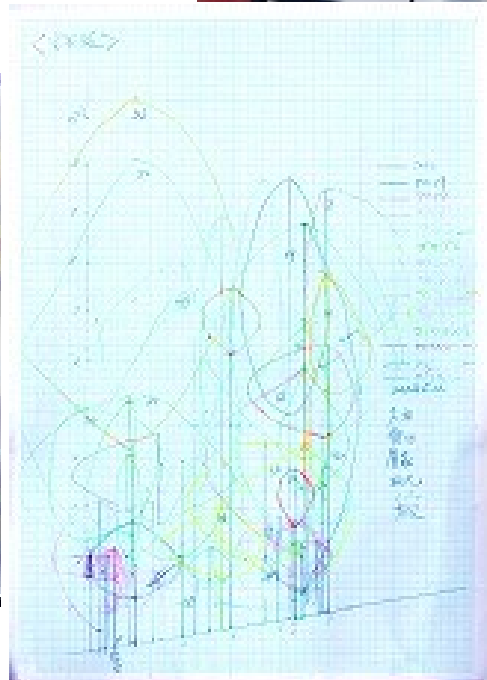
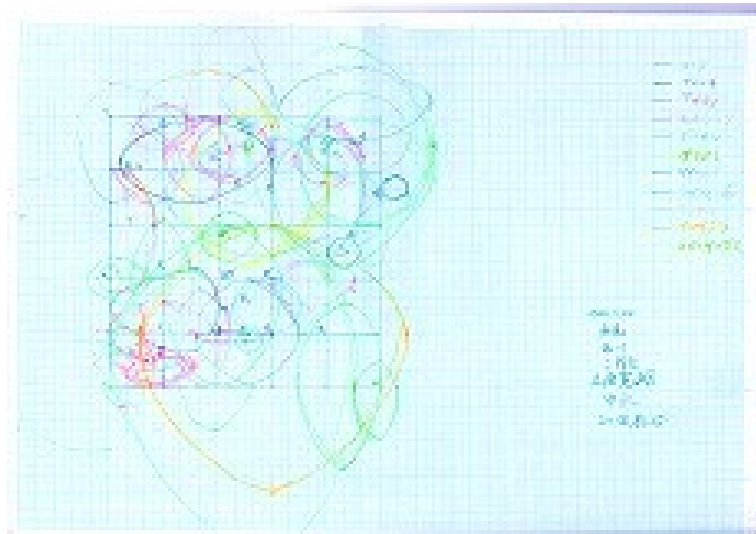
- 慣れて来た頃に終了（笑）樹々の名前等もまだまだ分かりませんが、これから身近な樹々の名を一つ一つ調べる練習をしていきたいと思います。面白いでした。
- 樹種が分からなくて土生先生にヒントを多く頂きました。図鑑を見ても同じ葉に見えていたものが少しずつ見わけることが出来るようになりました。
- 5m x 5mの間に50本以上の樹がありました。ウルシの樹もあって自然は凄いですね。

4. 図面化

調査地の調査データを可視化するため図面化（平面図と断面図）します。
左：会場は緑のセンターに隣接する五月山児童文化センター2階集会室です
中・右：土生先生によるデータの図面化の要領説明をされました。
1班は断面図、2班は平面図を担当することになりました。



図面の完成図、左：平面図。右：断面図。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 1本、1本書き写すと重なりがよくわかる。光が届きにくいのがはっきりわかる。
- オンライン講習の時はチンプンカンプンで「これ私に出来るのかな？」と疑問に思っていたことが沢山のひとと交わっているうちになんとなく記入出来るようになっていました。
- 目がちかちかしましたが、大小高低色々な樹の重なりから立体的に森が見えるので面白いですね。

第13回5月29日（日） 第6回新・里山講座13回目は2022年5月29日（日）受講生の皆さん9名、スタッフ7名 出席のもと「五月山グリーンエコー」さまの受け入れで先週行った「フィールド見学・毎木調査・図面化」に引き続き「森づくり企画・実習」を行いました。30℃を越える暑い晴天のもと、受講生の皆さんは奮闘しながら、しっかりとしたコンセプトのもと森づくりを完成されました。

1. オリエンテーション

左：緑のセンター2階会議室でオリエンテーション、本日の進め方など

中：五月山グリーンエコー代表の中川勝弘氏よりご挨拶。右：引き続きプロジェクターを使つての講義の準備。

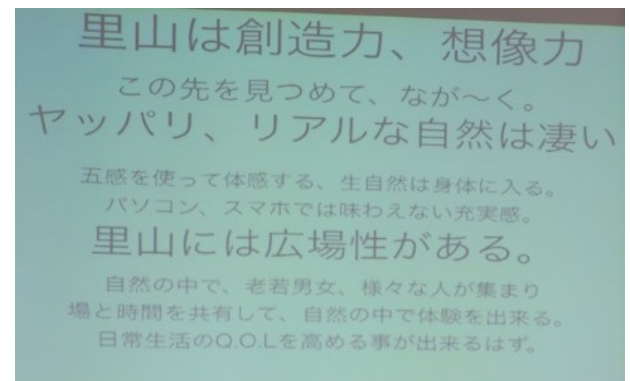


2. 講義：「植生調査と管理の実際」（講師、五月山グリーンエコー代表 中川勝弘氏）

里山保全管理を25年以上ご経験されたことからの貴重なお話です。活動を継続するには、市民の活動は結果より過程が大切、活動にあたっての心得、管理の手順、調査の進め方、管理計画を建てる、管理の実際、モニタリングを行う、里山は創造力・想像力、都市の自然は足し算、里山の自然は引き算、継続は手段ではなく目的・・・。

中川勝弘氏が「都市と自然」に寄稿された「大都市周辺の里山由来緑地の保全と活用の一考察 前編・後編」をテキストとしました。

写真はプロジェクターで映し出されたものです。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 市民として保全活動にかかる大切さを実感した。楽しんで継続することが大事。
- 長期にわたる活動、その秘訣・苦勞を詳しく聞けて興味深かった。
- よく頑張れたと思う、諦めずに歳月を重ねると、こんな良いものが出来ることが分かった。

3. 森づくり企画

2班にわかれて話し合い、最後に全員で森づくりをまとめ上げました。最初に宿題シートにまとめた毎木調査の結果と図面を参考に現状どのような森を取り纏めました。次にその上でどのような森にするかを宿題シート森づくり企画での意見を出し合いました。写真は受講生の皆さんが作成された宿題シートの一例です。

毎木調査・図面化まとめ

項目	内容
実習地の森の印象	香しい木が多い。人が入りたくない場所。 風と光が入りにくい。
どんな樹があった	アサカシ 13本 モチツツシ 13本 ツツジ 6本 2本 ヤマナシ 1本 ヤマナシ 3本 ヤマナシ 1本 ヤマナシ 3本 ヤマナシ 3本 ヤマナシ 1本
多い樹、少ない樹	アサカシ・モチツツシ (2本) ツツジ・ヤマナシ
常緑樹は	アサカシ・ヤマナシ・ヤマナシ・ヤマナシ
落葉樹は	ヤマナシ・ヤマナシ・モチツツシ
高木は (7m以上)	ヤマナシ (1本) アサカシ (1本) ヤマナシ
亜高木は (4~7m)	アサカシ・ヤマナシ・ヤマナシ
低木1種は (2~4m)	モチツツシ・アサカシ・ヤマナシ

毎木調査・森づくり企画

項目	内容
どのような森にしたいか	右側の道路(5m)を、人が通る所に近い場所から、考え、 ① 高木を何と残したいか、 ② 場所に通じる植物は何なのか、 ③ 宿木日本・亜高木日本・低木日本、 ④ 宿木日本・亜高木日本・低木日本、 ⑤ 宿木日本・亜高木日本・低木日本
その理由は	① 宿木日本・亜高木日本・低木日本、 ② 宿木日本・亜高木日本・低木日本、 ③ 宿木日本・亜高木日本・低木日本、 ④ 宿木日本・亜高木日本・低木日本、 ⑤ 宿木日本・亜高木日本・低木日本

最初は班ごとに話し合います。
班ごとのまとめを最後には全体で話し合い、取り纏めていきます。



森づくり企画も結果は、「明るい森にしてモチツツジなどを今以上に咲かせる」というものです。
そのために所定（調査データーのNo.を特定）のアラカシを8本間伐することになりました。

<受講生の皆さんのふりかえり>

- 花咲く樹はやはり皆さん残したいと思われたようでした。
 - 色んな目標が出てきたけれど、それぞれにいい点があり皆で意見を聞くのは良いことだと感じた。
 - 調査結果を基に目標をつくり、計画を立てる作業は思いのほか大変だった。
- どのような森にしたいかという明確な意志が大事。

4. 森づくり実習

緑のセンターでヘルメットとノコギリを受け取り、昼食休憩後にいざ調査地へ！
住宅街を抜け、約200段の階段を上りハイキング道を登り調査地に到着。
休憩後に進め方の説明です、1班は間伐、2班は間伐後の樹木の玉切り、枝払い、片付けを担当し、休憩後は交代して作業を進めることにしました。実習の最初は安全確認のためのKYKです



1班の間伐作業。左：間伐する樹のNo.を捜します 中・右：見つければ周囲に注意し間伐します。



左：休憩後はこの日の最もでかいアラカシ8mの間伐
中：倒す樹に作業する人がふれないように倒す補助と、かかり木にならないようにロープを使います
右：慎重に切り込み無事に倒すことが出来ました。



右：やったー！

皆で間伐した樹を囲み記念の写真。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 受講生の皆なで目標を設定しアラカシ8本の間伐したら、大変明るくなりモチツツジやヤマザクラの樹が喜んで花をつけてくれることでしょう。実習することで一連の流れがよく分かりました。
- 現地で切る樹を見ると、その周りに他の樹が生えており周りを切ってから予定していた樹の間伐にとりかかった。間伐し終わってその場を見ると森の中が明るくなっていて嬉しかった。
- 森とは自然が作り出すものと思ってましたが、人の手の加え方を学びました！！ 楽しかったです。

第14回目6月12日（日） 第6回新・里山講座14回目は2022年6月12日（日）受講生の皆さん13名、スタッフ7名、出席のもと阿倍野区民センター集会室1にて修了式を行いました。

1. オリエンテーション

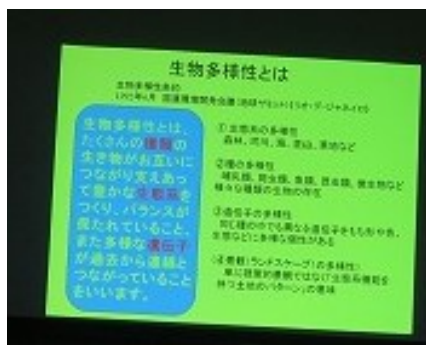
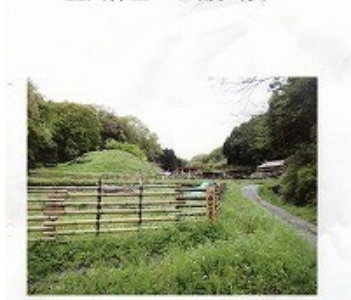
左：机椅子を教室型に設営、 中：司会の菅原あつ子スタッフ、 右：講師の田淵武夫氏もスタンバイ。

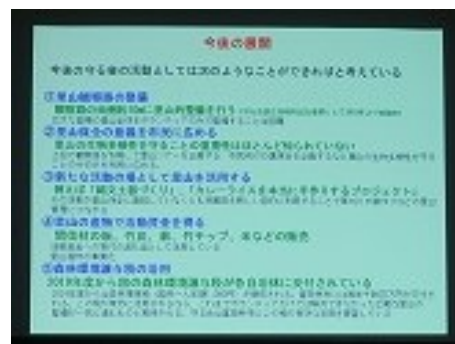


2. 講義「里山保全と生物多様性」講師：田淵武夫氏（富田林の自然を守る会 代表

終了式にふさわしい30年を超える里山保全のご経験からの貴重なお話です。

里山保全と生物多様性





3. 講座を終えてのふりかえり

顔が全員に見えるように机の配置を教室型から口型に並び替えの後、受講生の皆さんよりふりかえりを一人2分程度話して頂きました。



事前に講座全般へのアンケートをお願いしており、この結果を下表にとりまとめました。

第6回新・里山講座全般へのアンケート結果

I 講座に期待されたことへの結果は如何でしたか？期待通りであったこと、なかったこと等

- 今までの生活とは全く違う世界に触れることが出来、大満足です。
資料が充実していたので実習の不安を取り除けてもらえました 受講して景色の見え方が変わりました。
- 楽しく過ごさせて頂きました。これもスタッフの皆さまと受け入れて下さった里山再生の活動を続けている方のお陰です。
- カリキュラムを見て開催が待ち遠しく、それぞれが期待通りであった。
それぞれ活動グループに特色があり、選考に苦労されたことが感じられる。
「里山の世間が広がった」気がする。2つのグループに属しているが、大いに参考になり活かして行こうと考えている。
- 各分野の専門家による講義や実地研修は期待以上でした。

II 講座内容について気付いたことをお聞かせください。

- 講座開催時期（1月～6月）、講座費用（20,000円）、講師陣、オンライン講座、実習地
- 費用の半年20,000円は色々な講座に参加していますが、妥当だと思います。オンライン講座は好きではありませんが、感染症等時代の流れでしかたがないと思います。
- 虫が出ない時期で良かった。
- 月に2～3回の講座も都合がつきやすく、費用もレジメを頂き実習でも設備や器具も用意して頂き適当である。
実習も日頃活動し慣れていることであっても、気づかされることが大いにあった。
オンラインも初めてで不安があったが、スタッフの親切なアドバイスで無難にやり通すことが出来た。
- 資料を送って頂き目を通してチンプンカンプンでしたが、講師の方がとても丁寧に分かり易く 話して頂き、プラス実習があり開催が楽しみであった。

III 講座ニュースについて、良かった点、改善すべき点は如何がでしたか？

- ニュースや資料はわかり易くて良かったと思います。

- これまでご送付頂いた内容にて必要十分で読み易く良かったです。
- 適宜写真を盛り込んだ編集は大変だったことでしょう。いつも有難く拝読していました。
- 真剣に学んでいたつもりでも忘れることが多く、復習することが出来効果があった。
- 写真がふんだんに使われ雰囲気伝えてくれたので良かった。
- 皆さんの様子を聞かせて頂くことで、休んだ後も行ってみようという気持ちになりました。
- ふりかえることで色々気づきもありました。

Ⅳ 講座スタッフの対応について、良かった点、改善すべき点は如何がでしたか？

- 常に受講生を気にかけて支援下さり、ありがとうございました。特に改善点は無かったです。
- 未経験の私にとっても丁寧に暖かく対応して頂き感謝しています。
- 当初予定より私事が増え欠席が多くなり、申し訳なく思いましたが、しっかりフォローしてくださったので有難いと思いました。
- 里山への関心の軽重や経験の違い、年齢の差などの受講生が参加されたにも拘わらず、スタッフの方は、受講生に何をすれば良いかをよく理解されていたと感じた。
- 講師の方も話が上手で理解しやすかった。
- いつも丁寧に気持ちよく接して頂き参加意欲が増した。ありがとうございました。

Ⅴ これからの活動についてどのようにしたいと思っていますか？

<下記の該当しているところに全て○印を入れてください、その他何かあればご自由にご記入ください>

- ・自然のことに関わりたいので大阪自然環境保全協会の会員になりたい
○9名の方が加入されました。
- ・もっと里山のことにについて勉強・体験したいので新・里山講座のスタッフになりたい
○3名の方がスタッフ参加されました。
- ・新・里山講座で得られたことを里山保全グループで活かしたい
○3名の方。
- ・他の講座でもっと勉強して知識・技術をグレードアップしたい
○3名の方。
- ・現在活動しているグループで継続して活動したい
○3名の方。
- ・学んだことを活かして自分の生活を楽しみたい
○5名の方。
- ・とりあえず、今は何もしたくない
○なし。

4. 講座終了後の活動について

スタッフを代表して大塚より、以下について説明を行い、ご協力を得ました。

- 最初に講座が受講生の皆様のご協力のお陰で無事に終了出来たことのお礼と感謝を申し上げます。
- 当初予定の2月20日(日)竹炭焼き体験、3月12日植樹について、コロナ対策で受け入れ不可となり未実施となっています。ついては次の日程で予定します、是非のご参加をお願いしました。

No	開催日時 <実習時の雨天予備日>	場所	分類	内容	講師
5	9月23日(祝金)9時30分 滝谷不動駅集合 <9月24日(土)>	富田林市 奥の谷	実習	「竹炭焼き体験」	米田 彰一 (富田林の自然を守る会炭焼班)
6	10月30日(日)9時30分 南海電車 石津川駅集合 小雨決行	堺市 7-3区	実習	「共生の森・見学」 「プレ植樹祭に参加」	(公社)大阪自然環境保全協会

- 今回欠席された講座分は次回以降無料で参加出来ることを伝えました。
- シャシチャンボの会への登録をお願いし受講生の皆様のご了承を得ました。
- 保全協会への入会のお願いについても、9名と殆どの方に入会頂くことが出来ました。
- スタッフ参加は坂元祐馬さんからお申し出がありました、他の方については確認中です。
- 菅原さんより栗アカデミーと環境市民大学のチラシを配布、受講の案内をして頂きました。

5. 修了式

金谷理事よりご挨拶頂き、修了要件を満たされた、100%出席の塩川典正さん、細見公明さん、80%以上出席の會田裕子さん、大西康文さん、坂元祐馬さん、山本崇史さんに修了証を授与されました。



集合写真



以上